

次号予告

特集 家庭療育と自主トレーニング

自主トレーニングの適応と限界……………都心障センター 遠藤文雄
 地域リハビリテーション活動, 家庭訓練の意義……………筑波大学 福屋靖子
 家庭療育における成果と限界
 (母子入園児を中心に)……………聖母整肢園 伊藤美佐子
 家庭療育における成果と限界

(通園センターの場合)……………府中リハビリ専門学校 杉原素子
 <随想> 外来通院を受けて……………樋口節子
 勇の家庭療育……………築沢信子
 自主トレーニング……………片麻痺患者

とびら マンネリズムにおちいるなかれ……………日本大学 佐藤孝三

講座 失行症, 失認症Ⅴ 各論 (3)……………都老人研 鎌倉矩子

〃 CTスキヤン 1. 歴史……………放射線医学研究所 穴戸文男・他

プロGRESS マッサージ……………川崎リハ学院 水野祥太郎

〃 重度障害者の社会自立……………日本女子大学 小島蓉子

精神科作業療法 精神科作業療法の先達に聞く (その1)

菅修氏に聞く (3)……………北海道庁 鈴木明子・他

資料 第14回 PT・OT 国家試験模範解答 (Ⅱ)

文献抄録

編集後記

今回“新しいリハビリテーション医療器具”の特集に関して今までとは違った視点でとらえてみようと考えた。もちろん従来より存在したもののまたそれらの改良も重要であるが、リハビリテーション医学には予防的な面も大きく治療分野でも科学的根拠に基づいたプログラムの設定が理学療法士、作業療法士にとっても重要である。我国は一早く欧米のものをとり入れる習性があるが、そのよし悪しについても評価する必要がある。たとえば簡便であるという点で循環機能の負荷試験にマスターのテストが今でも広く使用されているが、マスター博士自身が20年前にこれはあてにならないと主張され始めた事実がある。その点に関してトレッドミルによる負荷試験について道場氏がこれからの方向づけを示唆して下さっている。また嶋田氏が等尺性運動の原理と実際について、特に増強訓練における機械的客観的評価の可能性を示され改良の余地が多いとしても今後評価の面でも活用さ

れそうである。高橋、米倉の両氏には作業療法における織機の活用について御説明戴いたので学生のテキストとしてお役にたてるものと考えられる。我国ではまだ inhalation therapist が制度化されておらず今後長寿国の日本では呼吸器疾患のリハビリテーションにかなりの比重がかかる事が明白であり福島氏の“レスピレーターの原理とリハビリテーションへの応用”は理学療法士、作業療法士にとって必要不可欠な知識を提示して下さい。鉄の肺の出現が50年前である事を考えると最近のレスピレーターの発展には目をみはるものがある。鉄道弘済会グループによる研究と報告“福祉機器の普及に関する問題点の検討”および鎌倉氏の講座“失行症, 失認症Ⅴ”は大変な力作であり汗の結晶であるがこの特集に花を添えて下さっている。とびら、随想、一頁知識それぞれ何か御考え戴く点を含んでいるし是非本誌を御一読の上編集部まで色々な御感想をお寄せ下さるようお願いする次第である。御元気にこの夏を乗りきられますよう! (萩島秀男)

<編集顧問>

天児民和
九州労災病院長

五味重春
埼玉県生活福祉部

砂原茂一
国立療養所東京病院名誉院長

津山直一
東京大学教授・整形外科

水野祥太郎
川崎リハビリ学院院长
(五十音順, 以下同じ)

<編集委員>

上田敏
東大リハビリ部

萩島秀男
リハビリテーションペ
イン(痛み)クリニック
かわらび診療所

大喜多潤
兵庫県リハビリセンター

鈴木明子
北海道庁

寺山久美子
都心身障害者センター

奈良勲
金沢大学医療技術短大

福屋靖子
筑波大学

松村秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

大橋博

大丸幸

金子翼

鎌倉矩子

紀伊克昌

駒沢治夫

佐藤章

佐藤馨

嶋田智明

高橋正明

武富由雄

谷岡淳

富岡詔子

中屋久長

藤沢しげ子

松本妙子

丸谷隆明

矢谷令子

山下隆昭

和才嘉昭

(担当 細田・西塚)